

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
教育・研究プロジェクト申請

1. 申請者（代表者）氏名

空閑 浩人

2. プロジェクト・テーマ

実習教育研究プロジェクト

3. 共同研究者氏名と所属（嘱託研究員候補者には*印を付してください）

*黒田 将史（大阪日本メディカル福祉専門学校）

*久万 祐子（聖カタリナ大学）

*尾崎 慶太（関西国際大学）

田島 望（同志社大学大学院博士後期課程）

孫 希叔（同志社大学大学院博士後期課程）

4. 教育・研究の目的と計画概要

社会福祉専門職養成教育において、実習教育の意義や、その果たすべき役割は大きい。

また、社会福祉専門職養成やそのための実習教育のあり方については、一大学や一施設で検討して足りる問題ではなく、関係者や関係機関が協働して取り組むべき課題であると考えます。

申請者は、ここ数年、京都、滋賀、奈良において、社会福祉施設の実習担当職員や大学、短大、専門学校で実習教育を担う教員とともに、主に「社会福祉士」養成の実習教育に関する研修会や勉強会、シンポジウムを行ってきている。それらの取り組みも踏まえて、本プロジェクトでは、主に「社会福祉士」養成に焦点を当てて、以下の3つの研究課題を挙げたい。

- ①「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正に伴う社会福祉士養成における実習教育の位置づけとカリキュラム上での実習の意義や目的、また現場実習に伴う事前事後学習の位置づけと内容の再検討。
- ②各分野・施設種別ごとに、現場における実習教育の現状と課題の把握と「社会福祉士（ソーシャルワーク）実習モデルプログラム」の開発。
- ③実習受け入れ施設・機関と大学（養成校）との連携のあり方に関する検討。

以上の課題に対して、文献研究とともに、施設や機関および実習担当職員へのアンケート

ート調査やヒアリング等から考察を行う。また学生が実習で何を体験しているかなど、改めて学生の視点からの考察も行いたい。さらに可能であれば、韓国の社会福祉士養成の現状に関する調査から日韓比較も試みたいと考えている。

5. 年次別教育・研究実施計画

2007年度：課題抽出・調査デザイン立案・文献研究

社会福祉施設職員への実習教育に対するヒアリングの実施と分析

2008年度：社会福祉施設・機関への調査の実施と「モデルプログラム」開発

2009年度：社会福祉実習教育の日韓比較

「研究報告書」作成

6. 研究上の予想される貢献と成果

大学教育における実習教育の位置づけを明確にするとともに、学生の現場実習先となる社会福祉関係施設や機関との連携のあり方を提案し、実習教育において両者が共有すべき課題（ソーシャルワークの実習として何を体験させ、そこから何を学ばせるのか、実習担当職員・教員としてどのような力量（教育実践力）が求められるのか）を明らかにする。

社会福祉関係施設や機関における実習生への指導の指針となる「実習モデルプログラム」を提示することにより、それを基盤とした各施設や機関の特徴を活かしたプログラムの作成と実習教育が可能になる。

7. 教育上の予想される貢献と成果

大学（養成校）における現場実習に向けた事前学習の内容と方法、また事後学習やスーパービジョンの内容と方法の充実につながる。

施設・機関と大学（養成校）との連携、および現場実習プログラムの提示によって、学生が自らの実習における体験内容や学習内容の見通しと課題をもって実習に取り組むことができる。

8. その他特記事項（あれば記入してください）

社会福祉士養成校協会や社会福祉教育学校連盟などの関係団体や組織による、各種セミナーやシンポジウム・研修会などへの参加により、実習教育に関する情報収集等に努める。

また、日本社会福祉士会や、京都府児童福祉実習連絡協議会、京都・滋賀・奈良の社会福祉協議会などの各種関係団体からも協力を得ながら、本プロジェクトを進めたい。